

No. 4 浴槽用浮き輪による溺水

事 例		年齢：0 歳 9 か月 性：男
傷害の種類		溺水
原因対象物		浴槽用浮き輪
臨床診断名		呼吸停止。（心停止は不明）
発 生 状 況	発生場所	自宅の浴槽内。
	周囲の人・状況	母と一緒に浴室におり、母は洗髪中だった。
	発生時刻	11 月 21 日 午後 19 時頃
	発生時の詳しい様子と経緯	母が洗髪中、患児はオムツ型の浮き輪に座らされ、足はついていない状態で浴槽内に浮かばされていた。母が、患児の声がしないのに気づき（長くて3～4分）確認したところ、患児は浮き輪からはずれ、うつ伏せで浴槽に浮かんでいた。すぐに浴槽より引き上げたところ息をしておらず、顔色不良のため人工呼吸を行った。1～2分で呼吸が再開し、ミルクの嘔吐もみられた。救急車で近医に搬送され、今後の加療のため同日当院へ搬送され入院となった。
治療経過と予後		当院来院時、呼吸はやや不規則、100% 酸素投与で SpO ₂ は 100% であった。意識はやや混濁していたが循環は安定していた。集中治療室に入室して管理した。呼吸は数時間で安定し、抗痙攣薬、浸透圧利尿薬を使用した。翌日には意識清明となり、哺乳も普段どおり出来るようになった。頭部 CT に異常を認めず、脳波所見も正常範囲内であった。その後著変なく、麻痺、失調など認めず 11 月 27 日に退院となった。以後外来で経過をみており、翌年 3 月 9 日（1 歳 1 か月）外来受診時の発達状況は、伝い歩き可能、単語は「わんわん」、「おっばい」が言える。後遺症は残さない可能性が高い。

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. この浮き輪は、浴槽内ですべるなどの危険性を減らすために作られた乳幼児用商品である。
2. この浮き輪は座るようになっているため、乳幼児の重心の位置が高くなる。子どもの頭が前方、あるいは後方に移動すると容易に前方、あるいは後方に転倒する。
3. いったん転倒すると、元の位置に戻ることができず、溺水となる可能性が高い。溺死例も報告されている。
4. 保護者といっしょに入浴する以外にも使用される可能性がある。危険性が高い商品であり、保護者にはこの商品を使用しないよう勧告する。